

## メロンの新品種開発・栽培を通じ「感動」を提供する

株式会社松井農園 奈良県田原本町

### ■メロンの新品種開発・栽培を行う

株式会社松井農園（松井邦彦社長）は、メロンを中心に新品種開発・栽培を行う会社。研究と実践で得たノウハウの還元で築いた、メロン農家との強固な信頼関係が強みである。

同社は松井社長の父の代から特にメロンを扱うようになり、中でも自社開発した「肥後グリーン」は熊本県を中心に全国のメロン農家に支持される人気品種の一つに育っている。

松井社長は、大学卒業後に銀行勤務を経てアメリカ西海岸のワシントン州立大学農学部で留学し、植物育種学やバイオテクノロジーを専攻。科学的な見地に基づく合理的な生産の重要性を学ぶと同時に、日本に残る多様な農村文化を守り伝える重要性に気づく。帰国後、地域産業として農業の果たす役割の大きさに思い至り、種苗業者として農業活性化に貢献することを強く意識した。

### ■「感動メロンプロジェクト」を開始

現在、生産農家の高齢化や品目転換によりメロンの作付面積は全国的に減少傾向にある。「ものによって当たり外れがあることや、食べごろが難しい等で消費者にメロンの価値が上手く伝わっていない」ことが一因と松井社長は分析する。

こうした中、松井社長は2010年に「感動メロンプロジェクト」を開始した。同社開発のメロン種子と栽培ノウハウを提供する公開プロジェクトで、多くの人がメロン栽培に触れるきっかけづくりと、本当に美味しいメロンを食べる「感動」、生産者の「想い」の共有に繋げる狙いがある。

### ■大学と共同で新品種「バンビーナ」を開発

2016年からは近畿大学と共同でメロンの新品種開発に挑戦。メロン農家を悩ませてきた枯死に至る病原菌に対処するため、近畿大学が実験を通じて「肥後グリーン」の派生種から耐性のある株

を厳選し、同社が培った育種技術を用いて糖度の高いメロンを生み出した。小鹿（バンビ）にちなんだ新品種「バンビーナ」のネーミングは、奈良県産というアピールポイントを意識している。

同社が50個限定としてネット上で販売したところ完売。また果肉をジェラートとして県内有名店が加工し、近鉄奈良駅や近鉄特急しまかぜ内で限定販売されたことでも話題となった。

### ■「日本一のメロン種苗業者」を目指す

現在、ICTを活用した土壌センサー付き自動給液システムの実証実験に取り組み、AIを用いて品目別に最適な水やりや肥料調整を分析し精度を高めることで、生産性の向上や自動化を目指している。成功すれば、収益性が高く持続可能な農業モデルの実現に近づき、「異業種からの農業参入や農業のフランチャイズ化等、中長期的な構想の具現化も視野に入る」（松井社長）という。

周囲から「メロンだけでやっていけるのか」と聞かれたこともあるが、「メロンには人を強く引き付ける魅力がある」と松井社長は断言する。

自身の原点が「感動」にあると語る松井社長は、「多くの人に美味しいメロンを食べる感動、栽培の感動を伝えたい」との想いを胸に、「日本一のメロン種苗業者」という目標に向け歩み続ける。



（太田宜志、吉村謙一）

近畿大学と共同開発した「バンビーナ」（左、写真提供：近畿大学）、松井邦彦社長（下）



### 株式会社松井農園

〒636-0304  
奈良県磯城郡田原本町秦庄272  
TEL: 0744-32-2035  
FAX: 0744-33-6780  
URL: <http://www.kandoumelon.jp/>